

Title	カルテシアーナ 第1号 彙報/あとがき
Author(s)	
Citation	カルテシアーナ. 1997, 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66873
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

プラトン『国家』における教育論 森 泰 一	ボカルトにおける思惟と存在について 岩谷 勝	度哲学哲学史第一講座論文題目	起
二 宅 祥 雄――初期サルトルにおける疎外の論理―――「心的なもの」の人間的意味	M・メルロー・ポンティにおける客観性の問題中 田 輝 美	哲学における知覚の問題について 山本 二山本 二	デカルトの「青念論」と皮の道徳論の展開こつ

あとがき

科学の創始者の一人である。彼が手が

大阪大学文学部哲学哲学史第一講座

ず、プラトンもあればスピノザもある 昭和29年から大阪を中心に活躍してい にあやかりたいとの切なる気持を諒と この講座に置いている。講座学生の研 フランス哲学の研究を主とする講座と た名だとは思ったが、この偉大な先哲 Cartesiana とすることにした。大それ して出す雑誌の名を、ごらんのように 博士課程学生、 ような特色を受けつぐため、今度講座 ルトル、メルロ・ポンチらが多い。 究テーマは必らずしもフランスに限ら るフランス哲学研究会もその事務所を してユニークな地位を占めてきた。 は講座創設の澤瀉久敬現名誉教授以来、 やはりデカルト、ベルクソン、サ 教官の研究発表の場と か

までもなく近世哲学の祖であり、近代のではもとよりない。デカルトは言うデカルト学派の研究に内容が限られるがような雑誌名にしたからといって、

(である)な雑誌名にしたまでである。 おけたことは哲学と科学のほとんどの 明城に関係する。アリストテレス・ソ 中イェティ、カント・アーベントがア リストテレス哲学、あらゆる哲学に広く 日を開いてあるべきである。 フランス哲学に限らず、あらゆる哲学に広く 日を開いているものである。 カらゆる 哲学そのものが哲学として既にすべて 哲学そのものが哲学として既にすべて に目を開いているものである。 からい このことは哲学と科学のほとんどのがけたことは哲学と科学のほとんどのがけたことは哲学と科学のほとんどのがけたことは哲学と科学のほとんどのがけたことは哲学と科学のほとんどのがけたことは哲学と科学のほとんどの

(三輪)